

★ 檀家さんに聞く



今回の檀家様は日高村能津地区長畑にお住いの畑山博信さんをご紹介します。

畑山さんは長年に亘って能津地区の祭りやボランティアを盛り上げて来られ、近年では仁淀川屋形船の乗船ガイドを初めてとして、地域の活性化に尽力されています。

日本一の透明度を誇り、全国にも名の知れた仁淀川ですが、地元に住んでおられる方々にはこの美しい川が当たり前過ぎていて、毎日何気に素通りしてしまっているものです。

いつも気さくで明るいムードメーカーの畑山さんから、屋形船ガイドに携わる想いや、この川の恵みを受けて育った少年時代の話など、味わい深いお話をたくさん伺ってきました。

ガイドブックを隅から隅まで読まれたらワシがやりにくいきねえ。なんて冗談言いながらお客さんを笑わせゆうがよ。(笑)

ガイドはもう始めて4年になるけど、もともと自分からやるつもりは無かったがよ。能津にこういうもの(屋形船の発着所)が出来て、そこからガイドの研修言う話が出てよね、まあ地元のことやき話ばあでも聞きに行っちゃらないかんってやりゆう内に、流れの中でガイドになってしもうたがよ。でも実際やってみたらまんざらでもないで。(笑)

やっぱり人と人が接するわけやき、学識がどうこうじゃなくて、「心をオンからオフに切り替えてゆっくり楽しんで下さい。」っていう自然体が大事よねえ。自分はずっとあんまり構えんづつ裸で飛び込むがよ。自分が構えちゃったら相手も構えるきね。構えられたら話にならんき。ようは楽しませないかんがよ。今はネットとかで学問的な情報は何でも手に入るけ、それよりも地元の者しか知らん昔の事とか自然のこととかを面白可笑しく話しちやるほうがずっと良いがよ。 小さなお子さんにはライフジャケットが貸し出されます。

当然、最終処分場エコサイクルのこともお客さんには聞かれる。日本一の清流で通ちゅう仁淀川のすぐ側に建ちゅうのは如何なものかと思われるかもしれんけど、この川は伊野町や土佐市の水源ながやき、ざっとしたことはしっちゃあせん!と、ちゃんと説明しゆう。止むを得ずあそこに建てられはしたけど、いろんな分裂も乗り越えて日高村が請け負うて頑張りゆうがや言うてね……。

まあ、それにしてもワシの子どもの頃に比べたら、川の生き物が減ったねえ……。手長エビらあは20分の1よ。当時はカニらあも上手に仕掛けて引き上げたら自分が後ろにどてってこけそうになるくらい沢山獲れた。

昔は親父の炭窯を手伝いよって、お昼頃になったら「おい、魚突いてこい。」って言われて山から下りて川に入ればと魚を捕まえよった。網はその当時高価やったき子



どもは使えれんかった。それで一番手っ取り早く突いて獲れるのが浅瀬におるフチガマ(アイキリ)やったがよ。

それは鮎を食べる魚で、今でこそ稀少やけど昔は大きいのがたくさんおったがよ。今思えば最高のお昼ご飯よねえ。だって皆が美味しいって言う鮎を食べるフチガマはもっと美味しいがやき。(笑)

でも、今でこそガイドやボランティアで家を出ることが多いけど、やっぱり基礎は家庭ながで。家庭を楽しく円満に治め、そこから地域・村・県・と広がって国を治めることに繋がるがやきねえ。おもしろきこともなき世をおもしろく、の精神で何事も自分がどう捉えるかで変わってくるがよ。坊さんら高知の若い人もそんな気持ちで頑張っしてほしいね。



屋形船に関するお問い合わせは
0889-24-6988まで